

# 生まれた時から危機の中 ～世界の子どもたちとユニセフの活動について～

## 奈良県ユニセフ協会 前事務局長 八木 勇氏

火曜午餐会・3月第2例会を、16日、講師に奈良県ユニセフ協会前事務局長の八木勇氏を招き開催した。「2年目に入った新型コロナウイルス。ユニセフは、幼い命を感染症から守りながら、母子健康や栄養治療など従来の支援活動も継続して行う責務を担っている。幼い命を守り抜くこのユニセフの活動は、みなさまの支援によって支えられている。」と語った。講演要旨は次の通り。

### ユニセフは子どもたちの命と健康を守る国連機関

ユニセフ（国際連合児童基金）とは、世界のすべての子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関。第二次世界大戦で被災した子どもたちへ緊急支援を行うため、1946年に創設された。1965年にノーベル平和賞を受賞。現在、開発途上国を中心に、190の国や地域において、政府やNGO、地域の人々と協力しながら、子どもたちが健やかに成長し、夢を実現することができるよう、支援活動を続けている。

### 子どもの権利条約

「子どもの権利条約」は、世界中のすべての子どもが等しくもっている“権利”について定めた条約。（1989年の国連総会で採択）大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めている。

- ユニセフは「子どもの権利条約」の精神に基づいて活動している。
1. 生きる権利 すべての子どもの命が守られること
  2. 育つ権利 医療や教育、生活への支援を受け、持って生まれた能力を十分に伸ばして成長できること
  3. 守られる権利 暴力や搾取、有害な労働などから守られること
  4. 参加する権利 自由に意見を表したりグループを作ったりできること

### 救える命 5歳未満児の死亡原因

ユニセフは3つの基準から、その国と地域で支援を行うかどうかを決めている。

- ① 5歳未満児死亡率（出生時から5歳になるまでに死亡する子どもの割合）
  - ② 所得水準（国民1人当たりの総所得）
  - ③ 子ども（18歳未満）の人口
- 世界では5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間約530

万人（2018年）。その原因の多くは、安全な水やワクチンがあり、適切なケアを受けられていれば防ぐことができる。ユニセフは、すべての子どもが乳幼児期に十分なケアを受けられるよう、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、母乳育児の推進、栄養改善など、総合的な支援を行っている。

### 募金に支えられているユニセフ活動

ユニセフの収入は各国政府の任意協力と民間の募金で成り立っている。2019年のユニセフの総収入は64億1,200万米ドル。政府等からの協力が60%、民間からの協力は23%。ユニセフの活動は皆さまで寄せられる募金によって支えられている。

2019年のユニセフ支出総額は62億5,900万米ドル。そのうち55億2,900万米ドル（88%）が開発支援事業費に充てられた。

### ユニセフと日本ユニセフ協会と奈良県ユニセフ協会

ユニセフは、世界33カ国・地域に国内委員会（ユニセフ協会）を置き、募金活動をはじめ、ユニセフの活動や世界の子どもたちの様子を伝える広報活動や、「子どもの権利条約」の実現に向けた政策提言に取り組んでいる。日本ユニセフ協会は1955年に設立され、ユニセフ日本委員会として、日本国内でユニセフ活動を推進している。

奈良県ユニセフ協会は日本ユニセフ協会と「協力協定」を結び、奈良県内で募金活動や広報活動に取り組んでいる。県内でユニセフ活動が始まってから約40年。2020年に奈良県ユニセフ協会は設立から20年を迎えた。未来を担う全ての子どもたちの命と健康を守るために、ユニセフ活動へのご理解ご協力をお願い申し上げます。



5歳になる前の子どもが命を失う理由（2018年）

